

⑥ 貴重な生き物たち

今やほぼ全域が市街地であるこの吹田市内では、ほとんどの生き物が大切といってもいいかもしれません。しかし、それではどこかに重点を置いた保護対策をとることができませんので、ここでは環境省や大阪府などが指定しているものなど、一般に貴重とされている生物を中心に記載しました。

哺乳類

ニホンリスとカヤネズミは今回発見できませんでした。もし見つければどちらも吹田市内では貴重な動物です。どこかに生き残っていてほしいものです。全国的には田畑などに多いコウベモグラも、トンネルを掘れない舗装が増えたことなどで、めったに見られない動物になってしまいました。

タヌキ、キツネ、テンはいずれも田舎では普通の動物です。しかし、吹田市内ではたいへん珍しくなっています。

鳥類

現地調査で確認された貴重な鳥は、7目11科20種でした。そのうち、初めてこの調査で確認された貴重な鳥はミゾゴイです。また、サンコウチョウや、猛禽類のオオタカ、ハイタカ、チヨウゲンボウなどが確認されました。このような猛禽類がいたということは、吹田の自然にまだ良いところがあるということを示しています。なお、オオタカは、平成21年（2009年）から万博記念公園で繁殖していて、大切に保護されています。

また、カイツブリの減少傾向、ホオジロ、ヒバリ、キジなどの農耕地などの鳥が少ないが、わずかながらキジが北千里に生息していることなども注目すべきだと思われます。

両生類・爬虫類

両生類・爬虫類の貴重種は、モリアオガエル、ニホンイシガメ、アオダイショウでした。それ以外の両生類・爬虫類も、生息場所自体が少なくなっていることと、移動を妨げる道路などにより生息地が分断されていて遺伝的に交雑できないことや、農薬の影響を受けやすいことなどで、きわめて厳しい状況にあります。たとえば、水田地帯では数多く生息していたトノサマガエルも激減しています。まとまった水辺や緑があり車がほとんど通らない万博記念公園では、モリアオガエルが移入されたり、ニホンアカガエルが保護されながら生息しており、貴重種などの生き残りスペースとなっています。



カヤネズミ（吹田市外にて）
写真提供：畠 佐代子さん 全国カヤネズミ・ネットワーク代表



カワセミ（吹田市外）



トノサマガエル



アオダイショウ（幼蛇）

昆虫類

貴重な昆虫類としては14種で、現地調査で確認されたのは、ベニイトトンボ、コシロシタバ、ベニバハナカミキリ、キアシハナダカバチモドキの4種でした。このうち、コシロシタバは現地調査のみの確認です。また、貴重種に指定はされていないものの、湿地性とされるコバナササキリが確認されました。吹田市のような場所ではかなり重要と思われます。

文献調査では12種の貴重種が確認されていますが、そのうち10種が万博記念公園で確認されています。昆虫類にとっても、万博記念公園が貴重種の重要な生息場所です。

今回、昼間の現地調査だったので見つけることができずでしたが、市内に生息するヒメボタルは重要な存在です。山田西の千里第4緑地に特に多く生息しています。平成23年（2011年）4月11日に本市の「天然記念物」として指定しました。



ベニイトトンボ

植物

特に貴重な植物として、ヤマサギソウ、トキラン、ギンランがやや乾燥した草地に生育していました。一部の水田付近ではミズオオバコ、サヤヌカグサ、アシボソ、ヌメリグサ、コブナグサ、アゼナ、キクモ、チョウジタデ、コナギ、テンツキ、キカシグサ、オギノツメ、シロバナサクラタデ、ワレモコウ、ヒヨドリバナなどの湿生草本・水田雑草が残っていました。丘陵部では、リョウメンシダ、ホソバヤマアブソテツ、トウゴクシダ、ゲジゲジシダ、コハシゴシダ、ウバミソウ（ミズ）、ワレモコウがありました。いわゆる貴重種ではありませんが、アカマツ林などに分布するコバノミツバツツジ、モチツツジ、ウスノキ、ナツハゼ、カンサイスノキ、シャヤンボなどのツツジ科低木類が一部に残っています。



ギンラン



ヒヨドリバナ



ミズオオバコ